

半移住計画

野沢温泉村 B 班	スリキャン
情報コミュニケーション学部 3年	影山 千春
総合数理学部 2年	石倉 大輔
政治経済学部 2年	千種 哲史
野沢温泉村	富井 花絵

目次

1	はじめに	p. 2
2	野沢温泉村の現状	p. 3
3	半移住の企画概要	p. 6
4	実現に向けた課題	p.8
5	まとめ	p.9

1 はじめに

今年度、野沢温泉村から定住人口増加施策として与えられたテーマが4種類あり、「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しい人の流れを作る」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域を作り、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」とあり我々B班は「地方への新しい人の流れを作る」というテーマを選択した。

野沢温泉村では、近年人口が減少してきているということで将来村自体がなくなってしまうのではないかという不安要素がある。

そこで、我々B班は野沢温泉の期待に応えられるよう野沢温泉村での現地調査のほか職員の方々を含めた熟議、野沢温泉村の人々等へのヒアリング調査を行うことにより、提言する政策案について検討を重ねてきた。その結果を、ここに「半移住計画」としてまとめた。

この「半移住計画」を活用して、野沢温泉村について現地に住んでみないとわからない野沢温泉村の良さを知り、情報を得て野沢温泉村に定住してもらいたいと考えている。

そこでこの「半移住計画」という提案をまとめるに当たっては、シェアハウスという形をとり宿泊の費用を格安で1つの施設に数人で暮らしてもらい、家事炊事は自分達行ってもらおう。そして、利用者間の情報交換をし、村の仕組みを理解してもらおうという計画である。ここで必要となるのが半移住の相談員である。この相談員はシェアハウスをするにあたっての空き家や求人情報を提供し、生活するうえのルールを説明してもらおう。格安の宿泊費なども管理してもらおう。

上記の点を踏まえた自然や温泉、様々な良い点をもった野沢温泉村らしいこの企画を「半移住」として提言させていただく。

次節ではまず野沢温泉村の現状を三つほど説明する。第3節では我々が提案する企画である「半移住計画」の具体的な企画概要の説明を行い、第4節では「半移住計画」を実現するための課題について述べることにする。

2 野沢温泉村の現状

(1). 夏の観光業について

ここでは現在野沢温泉村で行われているグリーンシーズンの観光について記しておく。夏の間にゲレンデをどうするのか、という問題は野沢温泉村に限らないスキー観光地の問題である。現在の野沢温泉村では、春から夏にかけてトレッキング客を受け入れるほか、夏季にはファミリー層にアウトドア体験を提供している。冬と比較してレジャー客が少ない原因として、観光地としての魅力が少ない、平地が少なく、できるスポーツが限られるなどの原因が挙げられる。

(2). Iターン・Uターンの現状

ここでは、統計資料をもとにIターン、Uターンの分析をしていく。
手元にある人口ビジョン、総合戦略策定に係るアンケート調査結果（速報）によると、移住理由の81%が「村内の人と結婚したため」と「父母等と同居する、あるいは近いから」で占められている。

項目	2位回答														離回答	合計
	父母等と同居する、あるいは近いから	村内の人と結婚したため	勤務先の場所の関係	自然環境に恵まれているから	子育ての環境が良いから	教育環境が良いから	高齢者福祉が充実しているから	災害などに対する体制が整っているから	治安が良いから	友人・知人がいるから	空き家、売地など住む場所があるから	土地の値段が安いから	野沢温泉村が好きだから	その他		
1位回答	0.0%	1.5%	4.4%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	2.2%	0.7%	3.7%	17.0%
父母等と同居する、あるいは近いから	0.0%	1.5%	4.4%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	2.2%	0.7%	3.7%	17.0%
村内の人と結婚したため	15.6%	0.0%	2.2%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	31.9%	59.3%
勤務先の場所の関係	0.7%	0.7%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	5.2%
自然環境に恵まれているから	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	7.4%
子育ての環境が良いから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
教育環境が良いから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
高齢者福祉が充実しているから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
災害などに対する体制が整っているから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
治安が良いから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
友人・知人がいるから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
空き家、売地など住む場所があるから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
土地の値段が安いから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
野沢温泉村が好きだから	0.0%	0.7%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	5.2%
その他	2.2%	0.7%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	5.2%
合計	18.5%	3.7%	8.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.7%	1.5%	0.7%	11.1%	3.7%	38.5%	99.9%

↑
 結婚、同居が理由の方は81%

↑
 結婚、同居以外の方は18%

〈表1〉 移住した理由

実際に我々が現地調査をしたところ、そのような住民の方々は何人もいらっしゃった。移住者が村内の方と結婚して住む利点として、地域のコミュニティに入りやすい、というのが挙げられる。逆に、単身または村外出身の家族での移住は野沢温泉村ならではの苦労が伴う。例えば、空いている住宅を探すのは困難で、村役場もわずか3箇所を紹介するにとどまっている。野沢温泉村で住宅を探すには、村民の紹介が必須となる。

転入してきた方々が野沢温泉村に転入する前にどこに居住していたか、という問いには、長野県内が54%、長野県外が46%で年齢別の割合を見ると、若い世代ほど県内からの転入が多く、上の世代ほど県外からの転入が多いことがわかる。

項目	回答数	構成比
長野県内	74	54.0%
長野県外	63	46.0%
日本国外	0	0.0%
合計	137	100.0%

〈表2〉 転入前の住所

野沢温泉村に住んでみて「良かったところ」を問うた項目では、「緑や水辺などの自然環境」が39.5パーセントともっとも多く、次いで「まちの安全・安心面」、「近所づきあい」とつづいていた。

項目	1位		2位		得点化評価	
	回答数	構成比	回答数	構成比	得点化	構成比
買い物など日常生活環境	2	1.6%	0	0.0%	4	1.1%
通勤・通学の利便性	6	4.7%	8	7.6%	20	5.5%
近所づきあい	11	8.6%	14	13.2%	36	9.9%
住宅環境	6	4.7%	4	3.8%	16	4.4%
教育環境	4	3.1%	2	1.9%	10	2.8%
福祉環境	2	1.6%	1	0.9%	5	1.4%
病院などの保健・医療環境	0	0.0%	2	1.9%	2	0.6%
子育て環境	10	7.8%	9	8.5%	29	8.0%
道路などの都市基盤環境	0	0.0%	2	1.9%	2	0.6%
まちの安全・安心面	16	12.5%	19	17.9%	51	14.1%
緑や水辺などの自然環境	57	44.5%	29	27.4%	143	39.5%
道路・公園の美化など生活環境	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
まちのイメージ	2	1.6%	11	10.4%	15	4.1%
雪の処理	3	2.3%	1	0.9%	7	1.9%
その他	9	7.0%	4	3.8%	22	6.1%
合計	128	100.0%	106	100.0%	362	100.0%

〈表3〉 野沢温泉村に住んでみての感想

ここで、未来のUターンにかかわる10代の考えを覗いておく。高校生世代アンケートで、仮に野沢温泉村外に転出した場合でもいつかは戻ってきたいかを問うた項目には、「戻ってきたい」と「できれば戻ってきたい」が合わせて4.6%、「戻ってくるつもりはない」が41.4%、「分からない」が54.0%となっている。高校生の世代では、まだ人生設計を描けていないというのが大半であろう。また、この「分からない」と回答した若年層にとって、村内の大人たちが人生のモデルたりえていないというのも一側面であろう。

項目	回答数	構成比
戻ってきたい	7	21.9%
できれば戻ってきたい	6	18.8%
戻ってくる予定はない	2	6.3%
わからない	17	53.1%
合計	32	100.0%

〈表4〉就職後、野沢温泉村に住みたい方

(3). 野沢組惣代

ここで野沢組惣代について記しておく。野沢組惣代とは惣が現在まで残ったもので、全国的にみても存続しているのは珍しい。現在の主な業務は、水利権の調整、祭りの運営、共有地の管理、村内のおよそ2/3の温泉の源泉の管理である。ここでいう「祭り」とは、湯澤神社例祭や道祖神祭りのことで、村内では大きな存在感を保っている。特に道祖神祭りはテレビ中継されるほどで、観光客も大勢詰めかける。各役職は1年ごとに交代するが、その間彼らは多大な自身の時間を費やすことになる。



〈図1〉村独特の文化の一つ、道祖神

(4). まとめ

以上みてきたように、野沢温泉村を取り巻く状況は厳しいものがあるが、その一方で村民の中には村の根強いファンがいるといえる。一般論だが、モノを売るには万人受けをするのではなく一部の人間に受けるモノをこしらえる、という手がある。次節では、いかにして村のファン、すなわち村の「良いところ」を知っている人間を村外につくるかを提案する。

3 半移住の企画概要

(1) 提案のコンセプト

前節では、野沢温泉村の抱える問題点について「夏の観光人口の少なさ」「住居不足による将来性の無さ」「村独特の文化」について触れてきた。これらの問題を解決するためには、「新しい観光の目玉となるもの」「新しい住まいの形」「新しい文化の触れ合いかた」が必要であり、それらを融合した「半移住計画」の必要性について本説では述べたい。

(2) 半移住計画の概要

野沢温泉村に移住するためには、住居や雇用といった数々の問題が存在し、現時点ではとても厳しいものとなっている。しかし、その移住のハードルを下げることはできないだろうかと考えた際、「短い時期での移住」が可能になれば諸問題の壁は乗り越えられるのではないかという結論を出した。つまり半移住計画とは、「野沢温泉村に短期間で気持ち半分だけでも移住してみよう」という趣旨の企画なのである。短期間でも野沢温泉村で暮らすことにより、観光だけでは伝わらない村の魅力を知るだけでなく、村で暮らしていないと得ることのできない情報を得ることができるようになる。これらについては後述する。

(3) シェアハウス

短期間であっても「移住」である以上、利用者には野沢温泉村での暮らしを全て体験してもらう必要がある。それは野沢温泉村の文化を知る事だけではなく、買い物や通院、洗濯、調理に至るまで、生活に関わる全ての事柄に当てはまる。しかし、村に何も繋がりのない人が、新しい地で何もかも自分たちのみでこなしていくことはやさしいことではない。そのため、常に生活で困ったことを共有し合える「ルームメイト」が必要であると考えた。また、村内にはインターネットでは知り得ない情報が溢れている。例えば、「家を売りたいがっているがどう売ればいいのか分からない高齢者がいる。」「村外からきた人々のアドバイザーのような存在の人がいる」といった情報である。

しかし、ここでもまた、村の人との繋がりの薄い利用者はこのような情報を得ることができないのだ。だが、一人であれば知ることはできないかもしれない情報でも、ルームメイトの誰かが知っていればそれを共有することが可能となる。つまり、シェアハウスであれば利用者の誰かが得た情報を全員が得ることが可能となるのだ。

半移住計画	
1泊あたりの料金	300円～500円
生活スタイル	シェアハウス
滞在期間	夏季シーズン限定

〈表5〉半移住計画の概要まとめ

(4) 半移住相談員

利用者同士で助け合えるとはいえ、全く村の事を知らないもの同士では限界がある。そのため、村での暮らしをサポートする存在が必要であると考えた。特に野沢温泉村には惣によって村の秩序が保たれてきたという歴史があり、外湯という独特の文化がある。他の地域とは少し異なったルールが存在し、それらについて利用者に説明する必要があると考えた。また、「半移住」を「移住」へと繋げるために、利用者へ「移住・定住」に関する情報を発信する場も必要であり、その役割を相談員が担うことができるのではないかと考えた。

(5) のざわ生活日誌

せっかく野沢温泉村での暮らしを知ってもらったのに、その良さを利用者の心の内だけで留めてしまうのは少しもったいないことのように我々は思った。そこで、野沢温泉村での暮らしを外部の人に PR することができる方法はないかと考え、日々の生活を SNS や手紙として発信してもらう方法を思いついた。具体的な方法は二つある。一つは Twitter や Facebook といった SNS にて毎日生活の様子を投稿してもらう方法である。主にインターネットに慣れ親しんだ世代を中心に、手軽に活きた情報を発信してもらうことが目的である。二つ目はあまりそう言った新しいツールに疎い方、あまり好まない方に、暑中見舞や残暑見舞として野沢温泉村での暮らしをしたため知人へ送る方法である。手紙というスタイルであるため、どのような方でも利用することが可能である。また、ブログとして公開し、村のホームページからリンクを飛ばすことも考えている。これらの活動は相談員が管理をするため、利用者はほぼ必ず情報発信を行うこととなる。

宣伝方法	ターゲット	具体的な内容
SNS を用いた宣伝	SNS に慣れ親しんだ若い世代	日々の生活を自身の SNS に投稿
はがきを用いた宣伝	全世代	暑中見舞や残暑見舞として日々の生活を記す

〈表 6〉 のざわ生活日誌

(6) まとめ

本企画には、「夏の時期の集客」「半移住という新しい暮らし方」「実際に暮らしてしまう文化理解の方法」といった要素を持ち、野沢温泉村の抱える問題を少しでも解決することができるのではないかと考える。また、「野沢温泉村での暮らしの良さを知ってもらう」「暮らしの良さを広めてもらう」「インターネットでは知り得ない現地の情報を得てもらう」これらのことは、野沢温泉村に住みたいと思う人を増やすことができる方法の一つにさえ成り得るのではないだろうか。

4 実現に向けた課題

(1) 宣伝方法

本企画は一度認知されれば、参加者によって宣伝されていくが、参加者が募るまでの宣伝方法に欠けている。現在、野沢温泉村では twitter や Facebook といった SNS を介した宣伝や、都内のイベントや店舗にブースを構えた宣伝等を行い、ウィンターシーズンだけでなくサマーシーズンの集客を行っている。

既にある媒体を用いれば、野沢温泉村を知っている人には「半移住」の企画を認知してもらえるかもしれないが、全く知らない人々への画期的な宣伝方法は現時点では見つかっていない。

(2) 居住地

実際に半移住を行う場所の候補として現地調査の中で廃校や使われていない従業員寮の存在を挙げたが、それぞれに下記のような問題が存在する。

場所	問題点
旧こぼと幼稚園・市川小学校	中心市街地から遠い
株式会社野沢温泉の従業員寮	従業員のための施設であり、一般人には開放されていない

〈表7〉居住地候補の問題点

そこで第三の選択肢として、「ホームエクスチェンジ」という制度を挙げた。ホームエクスチェンジとは、旅行を目的とした家交換であり、欧米では一般的に知られた制度となっている。野沢温泉村に物件を持つ外国人の中で、夏期シーズン中も滞在している外国人はきわめて少ない。そのため、利用していないシーズン中のみその物件を借りる事ができれば、他の2施設のような問題は発生しない。

加えて、海外サイトでは既に野沢温泉村にある物件をホームエクスチェンジ可能な物件として紹介しているものも存在した¹²。

実現に向けて、①現在ホームエクスチェンジを行っている物件数を性格に把握する ②日本人利用者と物件をもつ外国人との仲介役を設ける この2点が必要となってくるであろう。

1

<https://www.homeexchange.com/en/s/?kw=nozawa&blat=36.8503795042934&blng=138.2877351918945&tlat=36.99310470764532&tlnng=138.61389180810545>

2

<http://www.lovehomeswap.com/home-exchange/japan/toyosato-nakao-villa-nozawa-onsen-japanese-alps>

5 まとめ

以上、野沢温泉村から与えられた今年度のテーマの一つである「地方への新しいひとの流れを作る」に対する解として、我々B班が提案する半移住計画について説明を行ってきた半移住計画が実現するか否かについては、村長をはじめとした多くの方の審判やご協力が必要になるため、ここで改めてお願いをする次第である。

最後に、この提案を作成する過程において、村役場職員をはじめとして、野沢組惣代、観光協会の関係者、快く取材に応じてくださった村民の方々から貴重なお話を伺うことができ、多大な協力を得られることができた。これらの協力なしには、一つの政策提言としてまとめることはできなかつたと考える。また、この政策提言にあたり、グループでの作業、熟議やヒアリングを通じて、様々な学習の機会を与えていただいた大学の関係者の皆様方のご尽力も併せて、ここに改めて感謝の気持ちを記し、まとめとさせていただきたい。